

庄内町保健医療福祉推進委員会議事録

開催日時：平成30年6月29日（金）午後1：30～3：30

場 所：余目保健センター

出席委員：菅原源也、齋藤学、齋藤邦仁(新)、佐藤昭一、佐藤トク、庄司武晴、齋藤君夫
鎌田 剛、水尾良孝、高橋雅己(新)、鈴木 愛(新)、工藤むつ子、渡曾弘喜

欠席委員：日下部忠明

事務局：門脇保健福祉課長、佐藤主幹、鈴木課長補佐、阿部主査兼子育て応援係長、
長南主査兼介護保険係長、佐々木主査兼地域支援係長、加藤主査兼福祉係長、
齋藤主査兼健康福祉係長、日向健康推進係主査

会議の内容は次の通り

- 1 開 会 進行 門脇保健福祉課長 資料確認
- 2 委嘱状の交付 阿部副町長より、菅原源也委員に委嘱状を交付
(任期 平成30年6月1日～平成32年5月31日)
- 3 あいさつ 阿部副町長

平成29年度に3計画を策定した。庄内町の高齢化率は現在35.4%と少子高齢化が進んでおり、自助、互助、公助、共助の取り組みが重要となる。乳幼児から高齢者までが住みなれた地域で安心して生活できる地域共生型社会の実現に向け、町民、地域、関連機関と連携し取り組んでいきたい。

自殺対策基本法の改正により、全国全ての自治体で「自殺対策計画」の策定が義務付けられた。平成30年度は県内全自治体で自殺対策計画を策定予定。本町の計画についても審議をお願いしたい。

役場の新庁舎の建設が8月からスタートし、平成32年5月に開庁予定である。町民主体の親しみやすい行政づくりに努めていきたい。

- 4 委員長選出 事務局一任により水尾良孝氏を選出。
- 5 委員長職務代理者の指名 委員長が職務代理者に佐藤昭一氏を指名。
- 6 協議

司会：委員長 個別に管理するのではなく、専門の知識や事務局が連携して進めるよう協力を求める。

(1) 平成30年度の各計画の取り組みについて

①健康しょうない21計画（第3次） 事務局説明（資料1）

5/5広報にダイジェスト版を折り込む。町民が取り組むこと、町が取り組むことそれぞれの目標を設定した。がんキャンペーンを10月にイオン三川で開催。自殺予防キャンペーンは駅周辺で高校生や通勤者を対象者に実施予定である。

健康しょうないマイレージ事業は今年で3年目になる。今後、見直しを図りながら進めていく。

②庄内町高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画 事務局説明（資料2）

補足訂正 資料P4 10. 地域を加え、地域包括支援センターとする。

③第3期庄内町障がい者計画・第5期障がい福祉計画・第1期庄内町障がい児福祉計画 事務局説明（資料3）

児童発達支援センターの整備が必要。早期から自立支援の充実を図り、就労移行サービスにつなげることが重要。

④第2期庄内町地域福祉計画・第2期庄内町地域福祉活動計画 事務局説明

P. 25 29年3月作成 福祉計画の基本理念である

P. 26 重点施策記載

P. 32 生活困窮者の支援は酒田市自立支援センターに委託しており、課題を整理し連携していく。

ひきこもり相談は町の実施は今年度で3年目になる。電話、面談と相談支援の体制づくりをしていく。庄内町では出来るだけ町で解決できるよう地域のみななどで支援していくようにしたい。

委員：介護職員の人材を確保するための取り組みの方向性はあるのか。

事務局：町、事業所共手探り状態である。より高い資格をとるために5年勤務後は奨学金の返済不要や若い世代に介護の魅力伝えていきたい。

認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座養成はH29年度までは小学5、6年生に実施。H30年度は余目中学校でも実施した。秋まつりなど人の集まる機会に介護ブースを設定してはどうかなどアイデアを募り検討していく。

委員：高齢者の居場所・女性の社会参加の支援、不登校、ひきこもり、自殺などの問題で特に不登校は夏休み明けになりやすく、地域で何かできないか。または、行かなくてもよい手立てを独自に展開できないか。意欲のある次の支援、行政の支援はないものか。住民の自殺などに対し住民の自主的行動や次の手段を考慮する必要があるのではないか。

事務局：通いの場が多くあるのは自殺予防に有効とされている。同居でも孤立している高齢者は多い。いろんな世代が集まれる地域の通いの場が望ましい。

心のサポーター養成講座や通いの場の担い手養成講座で情報を学んでいる。

町だけでなく各関係機関が連携していくことが大事である。

委員：独居の情報、不審な行動など、日常生活の把握通報はどこに行くのか。

事務局：新聞配達、宅配弁当などの業者や民生委員から、地域包括支援センター、警察や町の福祉係などに連絡が入り把握している。町では高齢者見守りネットワーク連絡会議を年1回開催し情報を共有している。

委員：胃がんリスク検診の効果は上がっている。中学生を対象にするとか実施しないのか。議会まで伝わっているのか。やるまで発言するつもりだ。

事務局：現在、人間ドックでオプション項目として実施している。国の指針にはリスク検診が定められていない。引き続き検討していく。

(2) 庄内町自殺対策計画の策定について 事務局説明（資料4）

国のプロファイル分析を重ね計画を策定予定である。

庄内町は男性が多いのが特徴であり、周囲の支援が大切である。講座、講演会、キャンペーンを実施しながら支援していく。若者世代の自殺が増加しており、SNSの弊害も考えられる。今年3月の自殺予防相談機関周知チラシ配布後にメール、来所での相談があった。いのちの電話、保健所、医療機関等でも周知している。今後、周知方法等についても検討したい。

委員：スクールワーカーは何人いるのか

事務局：スクールソーシャルワーカーは2人と聞いている。他にも教育課と連携して連絡調整会議を年2回開催している。

委員：大学ではカウンセラーの養成課程を開設している。

(3) その他

庄内町子育て世代包括支援センター事業について 事務局説明

委員：任期中に町長、委員、事務局を含めた懇親会の設定を願う。

事務局：検討する。

委員：社会福祉協議会より、御礼と報告を申し上げます。ほほえみが福祉センターに移転する。7月17日から営業する。部署が連携しスムーズに運ぶことを基本としている。引き続き、ご援助、ご指導、励ましを願いたい。

7 その他

今年度は年間3回の委員会を予定している。

次回12月上旬予定。自殺対策計画の素案をまとめ送付予定である。

委員から木曜日午後開催の希望があり日程を調整したい。

8 閉会 門脇保健福祉課長